

2026年7月15日（水）

老球の細道931号

スポーツと教育

会津バスケットボール協会 室井 富仁

昨年高校野球で超有名な学校の野球部寮でカップラーメンを食べた、食べないで部員間のいじめ問題が発覚し、今でも裁判で争われている。本来、高校野球による高邁な教育理念を掲げている学校なのに、なぜこのようなくだらない事件が起きてしまったのだろう。

以前、中学、高校とバスケット部の先輩であったO氏が会津に帰省した時に一緒に酒を飲む機会があった。彼は中学、高校と私の目標のバスケットプレイヤーであり、文武両道に秀でた先輩であった。中学時代からすでに吉井四郎の技術書を読破していた。

そのO氏が飲んでいる最中に早稲田大学ラグビーの育ての親、大西鉄之祐氏を話題に出した。室井も指導に役立つから本を読んでみるということだった。私は幸運にも40年近く前に早稲田ラグビーの強さを知るために大西鉄之祐氏の著書を2冊購入していた。そのうちの1冊『闘争の倫理 スポーツの本源を問う』〈二玄社〉を、O氏の勧めもあってもう一度読み返してみた。膨大な内容から気になった文章を簡単にまとめた。

「勝つか負けるか分からないという一つの不明なるある目標に向かって、その目標を勝つという方向に解決するために、ある一つの方向を決めてその方法論に基づいて、その技術はどういうふうに練習したらいいかを考える。そしてその練習を行って目標のために毎日、毎日努力していく。こういうやり方は人間が行う一つの知性的な行動の過程と同じである」

「教育というのはその行動のなかに全身を投げ込んでやっていく、そのとき初めて青少年は学習する。ほんとうにそれが好きでほれ込んで、そこへ全身全霊打ち込んでやっていく行動をするときに、初めて人間は教育される」

「ある目標を決めていろいろな連中が協力してなかで人間の精神は成長していく。ですから私が勝つのではなく、われわれが勝つためにチームを作ってやっていくスポーツに大きな価値を認める。やらなければならぬのではなく、やらなければ皆にすまぬことに価値がある」

「ラグビーを楽しむ心」についてはバスケットに置きかえて下記に記す。

- 1・努力することを楽しむ心：努力することを楽しむ心こそ、人間のあらゆる行動を楽しくしてくれる。
- 2・知的行動を楽しむ心：バスケットは衝動的運動ではない。バスケットの技術には必ず理論がある。技術に理論を注入して練習することにバスケットの楽しみが倍加される。
- 3・フェアプレイを楽しむ：バスケットはゲームであり闘争である。勝ちたいために汚いプレイをする人は決して楽しいゲームはできない。
- 4・クラブの生活を楽しむ心：クラブにおいて育成された良き社会をつくるための行動と態度を実社会において実行できるスポーツマンは最高のバスケットマンである。
- 5・敵を愛し、尊敬する心：お互いに最高の技術を駆使し、最高の場面を作る。そのようなライバルには尊敬と愛情の気分がわいてくる。こうしたゲームこそ最高のもの。